らんこしの未来を考える

総合計画とは、町の最上位の計画として、将来における町のあるべき姿及び進むべき方向、並びに町民との協働によるまちづくりについての基本的な指針として作成される、大変重要な計画です。

第6次蘭越町総合計画は、令和2年度からの10年間を区切りとして、町が行う政策を明確化し、どのような町を目指すか、その目標を多くの町民の意見を聞き取り、共に作成するため、まちづくり町民アンケートの実施や住民意見交換会（ワークショップ）を開催し、現在、計画を策定しているところです。

今回は、まちづくり町民アンケートの結果と一般町民を対象としたワークショップの結果について、ご紹介いたします。

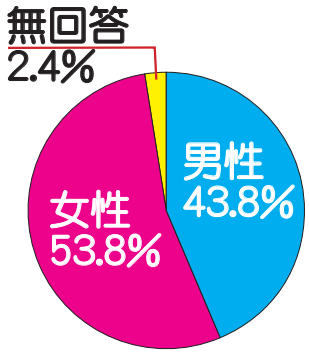
まちづくり町民アンケート

第6次蘭越町総合計画の策定にあたり、町では、多くの住民の意見を取り入れるため、平成31年2月から約1カ月間、無作為による18歳以上の町民1000名を対象にまちづくり町民アンケートを実施しました。

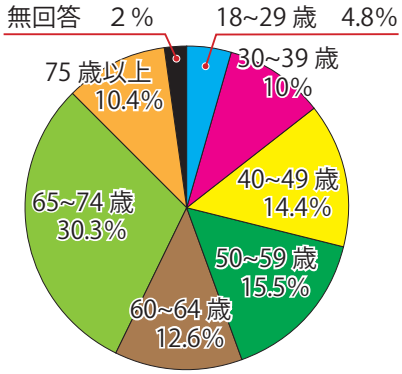
また、町民アンケートのほかに、まちの産業や福祉の担い手など、現在抱えている課題や要望などを聴取することを目的に中学生・高校生や事業者・団体、町内会を対象としたアンケートも実施しました。

町民の皆さんから蘭越町の現状や課題に対する率直な意見をいただき、今後の施策検討に活用していきます。

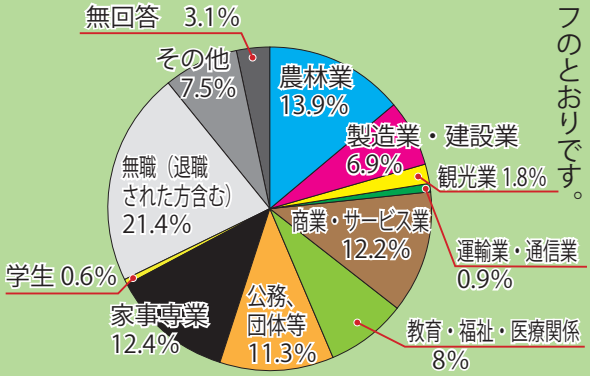
1000名中、回答者は、548名でした。なお、男女比は、左の円グラフのとおりです。



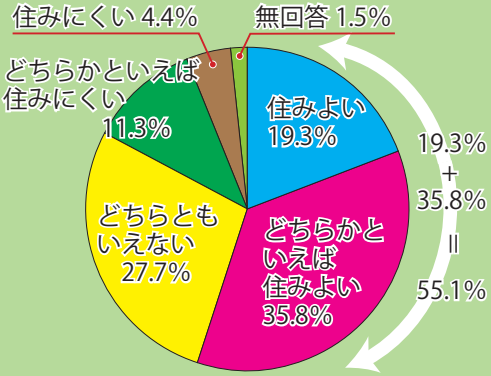
また、年齢構成で最も多い世代は、65～74歳で、約3割となりました。



職業別の割合は、左の円グラフのとおりです。



蘭越の住みごこちについての回答では、約55%の方が住みよいとの回答でした。



「第6次蘭越町総合計画」は、基本構想・実行計画の2層構造です。

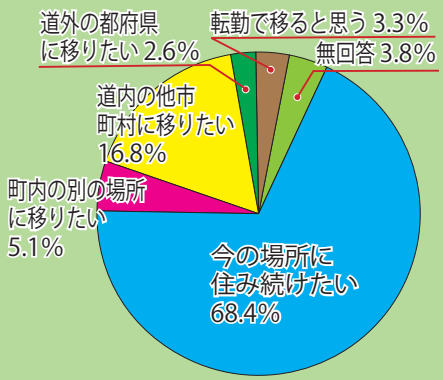
①基本構想

基本構想とは、町の目指すべき将来像とその実現のための基本方針や施策の要点を示すものです。

②実行計画

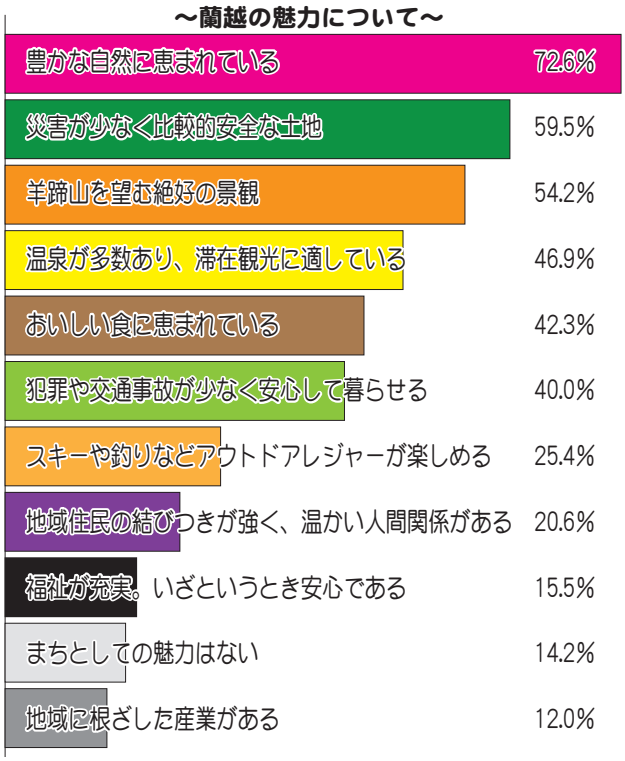
基本構想に基づき、その実現を図るために必要な重点事業と基本事業の2種類に分類し、それらの個別事業計画を作成します。

蘭越に住み続けたいかの問いには、約73％の方が今後も蘭越に住み続けたいという回答でした。

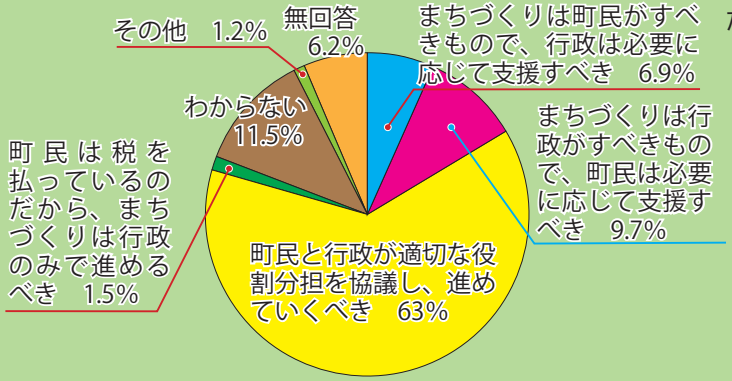


上記のうち、転出先の希望で複数あったものについては、道外は、東京が2件、道内で札幌市が42件、伊達市が10件、倶知安町が7件、ニセコ町が6件で、札幌市を選ぶ割合が特に多い状況でした。

蘭越の魅力についての問いでは、豊かな自然に恵まれているが約72％と最も多く、次いで災害が少なく比較的安全な土地と感じる方が約59％という回答が上位となりました。



町民と行政の役割についての問いには、63％の方が町民と行政が適切な役割分担を協議し、進めていくべきとの回答でした。



また、中学生・高校生や事業者・団体、町内会を対象としたアンケート結果や住民意見交換会での内容を踏まえ、町民がどのようなまちを望んでいるのか、具体的な政策を総合計画審議会で議論してまいります。

住民意見交換会（ワークショップ）

住民意見交換会（ワークショップ）のメンバーは、平成31年2月に一般公募を行い、24名の申込がありました。

5月から7月までの3カ月の間にワークショップを3回開催し、町民が日頃感じていることなど率直な意見を出し合い、行政と町民がそれぞれ協力し合い、住みよいまちづくりをするためにはどうすればいいのか、議論しました。

第1回目は、最初に「蘭越町の課題」、「蘭越町のいいところ」をテーマに参加者から意見を出し合い、出た意見を分野ごとにグループを作りました。

第2回目は、前回の意見を踏まえて、「まち・町民がすべきこと」を議論しました。

最後の第3回目は、「蘭越町の将来像・方向性・力を入れるべきこと」に焦点をあてて、意見を取りまとめました。

後日、ワークショップで議論し取りまとめた内容を金町長へ事務局から説明いたしました。

今後、町民アンケート結果やワークショップで取りまとめた内容を活かし、第6次蘭越町総合計画の具体的な施策となるよう取り進めてまいります。